

SUZUKA RIVER



国土交通省 三重河川国道事務所 鈴鹿出張所

鈴鹿川水系にも、**特定外来生物による
侵食が**始まっている！

★特定外来生物って何？

特定外来生物とは、海外起源の外来生物であって、生態系、人の生命・身体、農林水産業へ被害を及ぼすもの、又は及ぼす恐れがあるものの中から指定されています。そのため、その**飼育、栽培、保管運搬、販売、譲渡、輸入、野外へ放つ**、ことが**原則禁止**されています。

★違反したらどうなるの？

特定外来生物は、たとえば野外に放たれて定着してしまった場合、人の生命・身体、農林水産業、生態系に対してとてもおおきな影響を与えることが考えられます。場合によっては取り返しのつかないような事態を引き起こすこともあると考えますので、違反内容によっては非常に重い罰則が課せられます。(参考：環境省HPより抜粋)

★ところで、どんな特定外来生物による侵食が始まっているの？

オオキンケイギク (キク科) と、**アレチウリ** (ウリ科) ですが、これ以外にも存在するかもしれません。ここでは、オオキンケイギクとアレチウリの特徴について記載します。

◆オオキンケイギク (キク科)

○定着実績

1880年代観賞用、緑化用に導入。

○生態

キク科の多年生草本で、高さ0.3~0.7m程度である。

温帯に分布する。

路傍、河川敷、線路際、海岸などに生育する。

開花期は5月~7月。頭状花。虫媒花。瘦果をつける。

○在来種への影響

強靱な性質のため全国的に野生化し、貴重な植物への影響

も懸念されている。また、オオキンケイギクが優占する群落では、一年草が少なくなっており、オオキンケイギクによる下層の光環境の悪化が考えられた。

木曽川では、オオキンケイギク等の外来植物を選択的に除去したところ、カワラヨモギ、カワラマツバ、カワラサイコ等の河原に固有の在来種が回復したことから、在来植物の衰退の主要な原因の一つは、外来植物の侵入であることが示された。

○鈴鹿川水系での確認状況

鈴鹿川では、中流部及び下流部でちらほら分布しており、内部川においても下流部で確認、鈴鹿川の一部の高水敷では**群落を形成している箇所**も見受けられる。



オオキンケイギク



オオキンケイギクの群生
(木曽川において)

◆アレチウリ (ウリ科)

○定着実績

1952年に静岡県清水港で確認された。
アメリカやカナダからの輸入大豆に種子が混入し、豆腐屋を中心に拡大したといわれるが、近年では、全国の飼料畑や河川敷で多くみられる。

○生態

ウリ科の一年生草本で、生育速度が非常に速いつる性植物で、長さ数～十数mになる。群生することが多い。

果実に鋭い棘を密生する。日当たりの良い場所を好む。

土壌環境に対する適応性は大きいですが、腐食質の多い沖積地を好むため、有機質の多い汚染河川岸に非常に多い。焼却炉やゴミ集積地附近にも多くみられる。

開花期は8月～10月。雌雄同株。1株当たり400～500個の種子をつけるが、25000個以上との報告もある。種子には休眠性があるので土壌シードバンクを形成する。液果は風、雨、動物、人間により伝播される。

○在来種への影響

長野県千曲川で7月のアレチウリの現存量と在来植物の種数との関係を調査した結果、アレチウリが大量にある場所では、他の植物がほとんど生育しないことが示された。

○鈴鹿水系での確認状況等

鈴鹿川水系では、内部川において群落を確認され、内部川クリーン作戦において、駆除を行っている。

(参考：環境省 自然環境局 外来生物法HPより抜粋)

「SUZUKA RIVER」第6号は、どのような外来種が生息・生育しているかについて、地域の方々に知っていただくとともに、外来種に関する情報をお寄せいただくために掲載させていただきました。

- ・鈴鹿川・内部川・安楽川・派川に関することについてご意見やご要望がありましたら下記の連絡先までお願いします。

所在地（鈴鹿出張所）

〒510-0874

四日市市河原田町1962-2

（鈴鹿橋（旧23号線）より東側堤防沿い）

○ お問い合わせ

電話 059-345-5593

FAX 059-346-4907

○ 国土交通省三重河川国道事務所のホームページ

・ <http://www.cbr.mlit.go.jp/mie/index.html>



アレチウリの群生



アレチウリの駆除作業

